

■ 編集委員

齋藤 一之 (委員長)

穂田 真澄 板橋 明 糸山 進次 小山 勇 清水 道生 鈴木 洋通
竹内 勤 土田 哲也 西村 重敬 松下 祥 丸山 敬 持田 智
渡辺 修一 (五十音順)

■ 編集後記

埼玉医科大学雑誌に限らず、その雑誌をある一定以上のレベルで維持していくには、論文の査読が必要不可欠であり、その編集も重要なポイントといえます。その意味からも、昨年4月から編集委員のメンバーに加わったものとしては、本雑誌をより充実した内容で提供できるよう努力していきたいと考えています。ところで、本雑誌が電子ジャーナルの形をとるようになってから、いったい何人くらいの方がこの雑誌にアクセスしたのでしょうか。雑誌の内容にもよりますが、マウスでクリックしてからその内容が完全に立ち上がるまでに少し時間がかかるのが気になるという人は意外と多いのではないのでしょうか。確かに、“待ち時間の短縮”というのは病院の外来に限らず、それを利用する側に立てばきわめて重要なことといえます。電車やバスなどでの“待ち時間”もその一例に相当するかもしれません。

そんな中、過密なスケジュールの遅れを取り戻そうとしてJR福知山線の脱線事故が兵庫県の尼崎市で起きました。事故の原因としては、伊丹駅でオーバーランした遅れを取り戻そうとしたためにスピードを出しすぎたのではないとか、JR西日本の利益追求のための過密ダイヤによるものとか、色々なことが新聞に書かれています。一旦事故が発生してしまうと、今回のJRの事故のように、もともと利用者の便宜を図ったダイヤであっても、一瞬にしてその努力が消え去り、過密ダイヤによる事故という内容だけが前面に押し出されてしまいます。これは病院での医療事故あるいは医療過誤においても同じようなことがいえるのではないのでしょうか。たとえば東京医科大学病院で起こった心臓手術による相次ぐ患者死亡の件なども、一瞬にして大学の評価を落とし、高度医療施設に与えられる「特定機能病院」の承認返上というような結果を招くことになりました。もっともこの一件には心臓外科医の力量に問題があったという事実があるようです。いずれにしろ、今回のJRで起きた事故は「人間は何事にもある程度の余裕をもって行動することが大切である」ということを改めて考えさせてくれたように思います。少なくとも心のゆとりをどこかに持つという心構えが必要なのかもしれません。

さて、本誌の内容ですが、電子ジャーナル化したためか全体の量が各号で若干違いが生じているようにも思います。元来、雑誌は毎号ある程度一定のページ数が望まれるわけですが、本誌では目次の項で各原稿のメガバイト (MB) が示されているのみで、ページ数が記載されていないため、雑誌全体のイメージが捉えにくくなっていくのも事実ではないのでしょうか。

(清水道生)

埼玉医科大学雑誌

<http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/>

第32巻 第2号 通巻117号 (季刊)

編集責任者 齋藤 一之 平成17年4月30日 発行

発行所 埼玉医科大学医学会
350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38
電話 049(276)2125(直通) FAX 049(276)2127 E-mail: igakkai@saitama-med.ac.jp
郵便振替 00540-6-19727

制作 株式会社アテネデザイン
東京都港区三田1-11-19 小宮ビル2階 電話 03(3456)5741(代) <http://www.atene.co.jp>